

漁況情報 No.9

平成 19 年 8 月 3 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

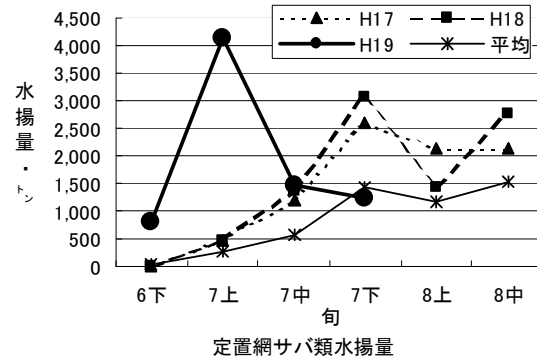
*本報は <http://www.pref.iwate.jp/hp5507/> に掲載しております。

<< トピックス >>

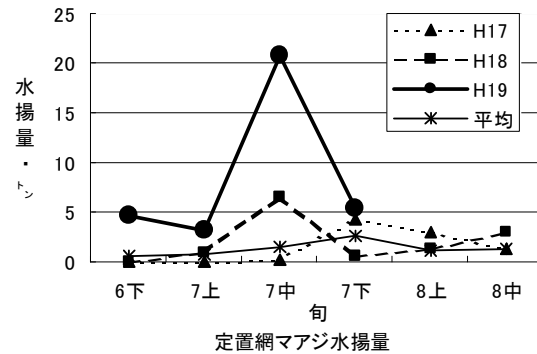
サバ類(定置網)の水揚げは減少しました。
マアジ(定置網)、スルメイカ(イカ釣り)の水揚げは好調です。

1. 水揚げ状況

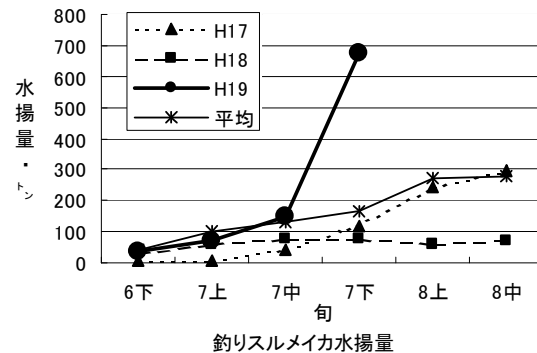
(1) サバ類(定置網)は大船渡を中心に水揚げがあり、7月下旬の水揚げ量は1,243トン(前年同期の41%)でした。また、7月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は1,427トンで、旬水揚げはその87%でした。年累計は7,733トン(前年同期の1.6倍)です。



(2) マアジ(定置網)は大船渡を中心に水揚げがあり、7月下旬の水揚げ量は5.3トン(前年同期の10.7倍)でした。また、7月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は2.6トンで、旬水揚げはその2.1倍でした。年累計は108トン(前年同期の13.6倍)です。



(3) スルメイカ(イカ釣り)は久慈を中心に水揚げがあり、7月下旬の水揚げ量は676トン(前年同期の9.1倍)でした。また、7月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は164トンで、旬水揚げはその4.1倍でした。年累計は985トン(前年同期の4.0倍)です。



*水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計による。

2. 調査結果、その他の情報

◎サバ類精密測定結果

7月下旬に水揚げされたサバ類(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。

体長はオス、メスともに31~34cm主体であり、6月下旬より1cm程度小型になっていました(図1)。本県で水揚げされるサバ類には、マサバとゴマサバがあります。両種は体長(尾叉長、図2、A)と背びれの長さ(第1背びれ第1~第9棘基底長、図2、B)の比で判別できます。体長に対して背びれの長さが長いものがマサバ(判別指数12以上)、短いものがゴマサバ(判別指数12未満)とされています。この判別方法によると、今回測定したサバはマサバが26%、ゴマサバが64%でした(図2、サバの図は Collette and Nauen(1983)を転載)。

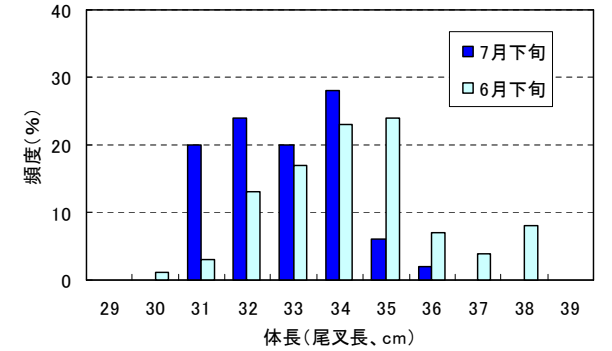


図1 サバ類体長組成

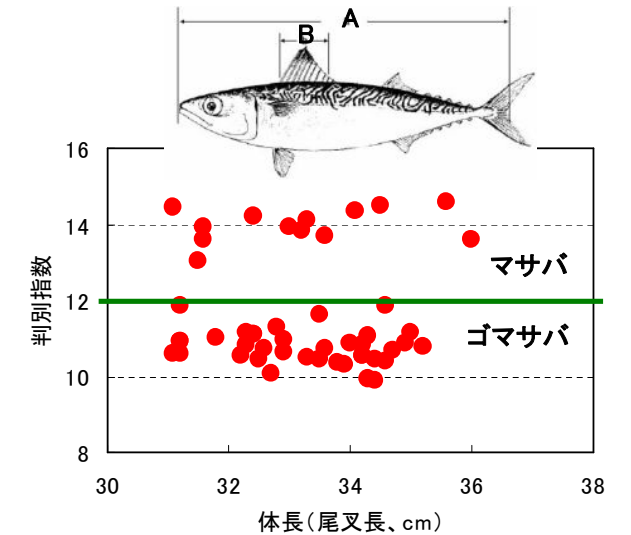


図2 マサバ・ゴマサバ判別指数

2. 調査船運航計画 (8月)

	調査内容	調査期間
岩手丸	沿岸定線海洋観測調査	8/6~10
	第2次イカ類漁場一斉調査	8/20~24
	イカ類漁場調査	8/27~31
北上丸	タコ類カゴ標識放流調査	8/1~3、/27~31
	仔稚魚・動物プランクトン調査	8/6~8、/23~24
	および沿岸域観測調査	
	イカ漁場調査	8/9~10、20~22

「フィッシャリィ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもご活用下さい。